

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

八戸市長 熊谷 雄一

市町村名 (市町村コード)	八戸市 (02203)
地域名 (地域内農業集落名)	上長地区 (正法寺、三条目、笹ノ沢、尻内、大仏)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年7月24日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

<p>当地域は農業者の平均年齢が66歳と高齢化が進み、中心となる担い手が引き受ける意向のある耕作面積よりも、65歳以上で後継者未定の農業者の耕作面積の方が多いため、農地の受け手の確保が必要である。そのため、今後継続的な農地の利用を維持するためには新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民なども含め、地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が課題である。</p> <p>2地区で「農地中間管理機構関連農地整備事業」の話があり、今後関係者で協議が行われていく予定。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農家数:226戸(うち販売農家数112戸、自給的農家数114戸) 農業従事者数:300人(うち50歳代以下69人) 団体経営体(法人・集落営農組織等):1経営体 主な作物:水稲、ごぼう、ながいも、にんにく、ピーマン</p>
--

(2) 地域における農業の将来の在り方

<p>単一の農業経営ではなく、水稲、ごぼう、ながいも、にんにく、ピーマン等を中心とした複数部門による農業経営を行い、地域農業を維持させていく。</p> <p>本地域は土地区画整理区域を含み交通利便性も高いことから、通勤型農業も含め入作を希望する担い手の受入れを促進することにより対応していく。</p> <p>既存の担い手には、分散錯圃でも異なる品種を作付けできる等様々意見があることから、個々の担い手の意見を尊重した農地利用について取り組んでいく必要がある。一方、2地区においては基盤整備事業の話があり、地域外からの担い手の確保に繋がる可能性もある。</p>

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	499 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	343 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

<p>農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。</p>

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
上長地区の農地利用は中心となる担い手の認定農業者、認定新規就農者等計16経営体が担うほか、入作を希望する担い手の受入れを促進することにより対応していく。 また、農地中間管理機構を活用して認定農業者や認定新規就農者を中心に担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
貸借は農地中間管理機構の活用を基本とし担い手の意向を斟酌するが、様々な意見があることから、個々の担い手や地区ごとの意見を尊重し、できる所から集約化を進める。また、市農業委員会に比較的大規模な貸借希望があった場合は農地中間管理機構担当部署へ誘導してもらうなど連携し、積極的な活用を促す。
(3)基盤整備事業への取組方針
2地区において「農地中間管理機構関連農地整備事業」の話が浮上しており、今後協議が進められていく見込み。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
本地域は土地区画整理区域を含むため住宅地が多く、市内他地域と比較して終業後や週末に営農するいわゆる週末農業が多いことから、徐々に後継者意識を醸成していく。また、2地区においては「農地中間管理機構関連農地整備事業」の話が浮上しており、今後、地域外等からの担い手の確保に繋がる可能性がある。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
機械設備を持つ農家に、稲刈り等一部作業を委託している。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①地域での鳥獣害の具体的な対策はなく、各農家で個別対応している。農作物被害があった場合には農作物被害担当部署へ連絡後、捕獲等の希望がある場合は鳥獣害担当部署から鳥獣被害実施隊事務局へ連絡し、罟の設置を行っている。
- ②環境保全型農業直接支払交付金を一部活用した有機・無農薬栽培が行われている。